



世界中で読まれている
ナルコティクス アノニマスの
定期刊行物

エディター
ド・ジェンキンズ

コピー・エディター
デイヴィッド・ファルク

プロダクション・マネージャー
ファティア・ピロルト

NA Way ワークグループ
ポール・C、アラン・D、マーク・G、
ステファニー・V、スー・H、ティム・S

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジン では、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしています。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしています。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールド サービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせください。

NA Way マガジン は、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、**NA Way マガジン** またはナルコティクス アノニマス ワールド サービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットから**NA Way マガジン**を配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン(The NA Way Magazine: ISSN 1046-5421)、**NA Way**(The NA Way)、ナルコティクス アノニマス(Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。**NA Way マガジン**は、ナルコティクス アノニマス ワールド サービス社(19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311)によって、年に4回発行される。

私には、18才になる息子がいる。その友だち(トムとしておく)が、二度とクスリに手を出すまいとがんばっていたので、2.3日の間、私たちのところに泊めることにした。だが、ウチは狭いので、息子とのふたり暮らしでもプライバシーなどないに等しい。われながら、ずいぶん思い切ったことをしたものだ。その夜は、トムと息子だけでなく、息子のガールフレンドも他の友だちも何人か集まり、みんなで長いこと語り合った。話を始めてすぐ、私には2つのことがはっきり見えてきた。まず、「クリーン」といっても、このトムという男の子にとっては自分の本命のクスリを使わないという意味なので…実際には、ほとんど何でも手当たり次第に使っているというわけだ。つぎに、トムはああでもないこうでもないごちゃごちゃ考えているため、私がどんなにNAのメッセージを伝えようとしても耳に入らないのだ。そこで私は、自分のできることを教えてくださいとハイヤーパワーにたずね、その導きに従ってトムにベーシックテキストを渡した。

翌日の午後、トムはベーシックテキストを開き、まえがきのページをバラバラとめくっていった。そして、声に出して読み始めた。『私たちの生き方、考え方はすべて…使うのをしばらくやめられるのなら…』。マーカー(蛍光ペン)を手にとると、1行1行線を引きはじめた。『この病気のために、私たちは孤立していった…』。トムは声をつまらせ、取り乱すまいとしていたが、こらえきれずに泣き出した。『生活能力は動物並み、気持ちはボロボロ』。部屋を見わたして私の方を向くと、「これは…ボクのことだ」と言った。

その夜、トムは、私の息子(NAメンバーではないが、ミーティング場で育った)に連れられてミーティングに行った。そして、ミーティングのスケジュール表をもらい、数人の男性メンバーから電話番号を教えられ、スポンサーも見つけてきた。これが印刷されるころには、30日間クリーンでいたことになる。私には25年間のクリーンタイムがあるとしても、トムの心に届いたのは私のメッセージではない。NAの文献にまとめられたNAメンバー全員の希望のメッセージが届いたからこそ、みんな同じだということや自分はひとりぼっちではないということに気づき、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見出すことができる』ということがわかったのだ。

というわけで、今月号ではNA文献を大きく取りあげる。2010年度のNA文献調査表を載せ、わかちあいの記事にも文献からの引用を添えてある。インターネット版のNA Wayを予約購読していれば、NA文献誕生の最新記録を見ることができるだろう。これは色分けされてわかりやすい年表になっている。そしてもちろん、17ページにあるコミック『ゼ・カルディンホ』もお見逃しなく!

なお、再登録の手続きをしていないメンバーには、今月号が紙版で発送されるNAWay マガジンの最終号になる。ぜひ、10ページと11ページをお読みいただき、この情報をそれぞれのNAにいる仲間たちと共有していただきたい。

ド・J (エディター)

表紙のイラスト: ボランティア リージョナル コンベンション28 コミティ(アメリカ合衆国/ネネシー)の好意によって提供された作品

今月号の掲載記事

特集記事

・逃げるが、勝ち! 3

分かち合い

・ナルコスラビア通信 5

・雨にも負けず、風にも負けず 7

・私たちは必ず回復する 7

・病院施設委員会がなかったら… 8

投書欄

どうすればNAのサービスシステム

を改善できるか 9

NA Way 予約購読の変更 10

Living Clean Project Update 12

2010年度NA文献調査 13

グループ紹介 16

Calendar

ユーモア

『ゼ・カルディンホ』 17

NAWS Product Update 18

Coming soon 19

WCNA 34 事前登録 20

NA Way マガジン では、読者のみなさんからのお便りをお待ちしています。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

NA Way マガジン は、ナルコティクス アノニマスのメンバーがいることで存在する雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そのような雑誌であるゆえの使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的メンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、「アディクトであっても、ドラッグを使うのをやめることはできるし、それによって使いたいという欲求はなくなる。どのようなアディクトであろうと、新たに生きるすべがあるからだ」というNAの回復のメッセージをたたくことにこそ力を注ぐ。



逃げるが、勝ち！

こんがり焼けてボリューム満点…病みつきになるほどおいしいブリトー

10年以上もクリーンでいると、薬物がすっかり遠ざかってしまったように思えることがある。だが、生きていくかぎり、アディクションによって厄介な目にあうのは変わらない。ボクは、クリーンになったばかりのころに、「薬物なんて、この病気による症状のひとつにすぎない。アディクションというのはさまざまなかたちで現れるのだ」と教えられた。それで、男女関係や友だちとのつきあいななかで泥沼になるのだらうと思った。だけど、まさか自分が再びアディクションにつかまるとは思いもしなかった。それも、相手は、こんがり焼けてボリューム満点のブリトーなんだ！

それは職場でのごく普通の日だった。時間が過ぎるのが遅く、ボスは機嫌が悪い。ボクは、二晩つづけて遅くまで自己憐憫にひたり、その気分を引きずったままだった。ボクの場合はこれが、アディクションによる発作のはじまりだ。自分をあわれに思ってしまうと、きまって、人生をダメにするような考えが頭をもたげてくる。そんなときは疲れがとれないので、ろくでもない欲望にすんなり従ってしまうんだ。昼食の時間になった。そこでボクは、近所のメキシコ料理を安く簡単に食べられる店に行った。メニューの表示には、「新登場！ こんがり焼いてボリューム満点のブリトーをとりそろえました」とある。中身は「味つけたひき肉、栄養満点の豆類、味つけたライス、3種類のチーズ、クリーミーでコショウの効いたジャックソース、サルサ」。これを、「良質の小麦粉でつくった特大サイズの焼きたてトルティーヤで包み、直火でじっくり焼き目をつけてあります」と書かれていた。さらに、「タレに漬けてこんがり焼いたチキンやステーキを追加して、ボリュームアップすることもできます」とある。これを読んだだけでもう、よだれが出てきた。

見事なまでにこんがり焼き目のついたほかほかのブリトーを手にしたら、落ち込んでなんかいらなかった。一口食べたたん、まさに、はじめてコカインを一発決めたときに頭をよぎった考えが浮かんだ。「こんなものが、この世にあったとは…」ってやつだ。このおいしさ、それがどんなに心をなごませるか、伝えたくても言葉にならない。もう自分を哀れだなんて思わないし、気の重い一日ともさよならだ。お腹がいっぱいで、気分も上々。まったく言うことない…なさすぎた。

それから2週間、毎日、昼はこれだった。ただし、ピリ辛ソースを加えたり、チキンやステーキを加えたりと、ちょっとした変化はつけた。どの組み合わせも、前日に食べたものよりおいしかった。これ以上ないというくらい、もっとおいしくならないものか？ ブリトーを極めつくせるか？ そんな考えにふけていたので、ボクは深みにはまっているのがわからなかった。そんなある日のこと。「昼食はどうする？」とボスに訊かれた。ボクが「ブリトーでも買ってきます」と答えると、「ジョー、おまえ、こししばらく、そんなものばかり食べてるだろ」と言われた。ボクは、現実をまったく見

ようとしないうアディクトならではの返事をするしかなかった。「大丈夫ですよ。ブリトー以外のものが食べられなくなっているわけじゃないし」。

そして翌週も、毎日ブリトーを食べて過ぎていった。これじゃ生活もままならない。客観的にみて、そう考えるしかないのは、一日の大半をトイレで過ごすようになっているってことだ。これは

ブリトーを毎日大量に摂取しているためか、あるいは赤痢を発病したのか。この2つしか説明がつかない。ありがたいことに、ボクはひとり暮らしなので個人的なことをだれかに説明する必要はない。ボクは禁断症状を起こすようになり、アディクションのわなにはまってしまった。だから、悪い徴候をいっさい無視することにした。



数日して、テレビの撮影のため、ボクは職場から何百時間も遠く離れた地方に行った。つまり、今の自分に「なくてはならない食べ物」とのつながりが断たれてしまったわけだ。でも、行きつけのメキシコ料理店は全国チェーン店だから、パニックにはならなかった。ボクは、撮影現場の責任者に店がある場所をたずねた。すると、このあたりにはないだろうと言うではないか。その瞬間から、すっかり強迫観念にとりつかれてしまった。店がないとわかったことで、どうしても食べなくてはいられなくなってしまったのだ。この時点で、自分がどうなるうとかまわなくなっていた。とにかく、においをかぐか、近くに店があるとわかればいいんだ。ボクは半狂乱になってコンピュータをさがし、店を検索した。すると、ここから30分で行ける距離に、1店あるじゃないか。ボクは作戦を練った。30分か。車で帰って、撮影に間に

…ひどい目にあっただけ、ブリトーのせいじゃない

合うだろうか。やってみるしかない。ボクは道順の案内図をプリントアウトして、だれにも告げずに出かけた。どこからどこまで、一発決めようとしてあるアディクトになりきっていた。

アディクションのなかでも、薬物を手に入れようとしているときほど幸せな瞬間はない。アディクトならだれだって、そう言うだろう。一発決められると思うと、もうそれだけで興奮する。どんなにスカッとするか。一度やったらやめられない。チキンにするか、ビーフにするか。ステーキもいいな。ソースはどうする？ 辛口？ 甘口？ 飲み物は要らないな。その方が、ブリトーの風味をじっくり味わえる。ボクは正気を失っていた。猛スピードで走らせながら、警官がいらないかどうか目を配った。そうしていれば、呼び止められないですむだろう。撮影に間に合うように戻るには、一秒たりとも無駄にできない。まもなく、左手遠くに紫色の看板が見えた。大

きな黄色いベル(鈴)の絵が描いてある。ボクは運転にしっかり集中するために、ラジオのボリュームも低くしていた。車の中で、お腹がぐうぐう鳴りだした。脂っこくておいしいものがもうすぐ手に入るとわかって騒いでいるんだ。だが、店の近くま

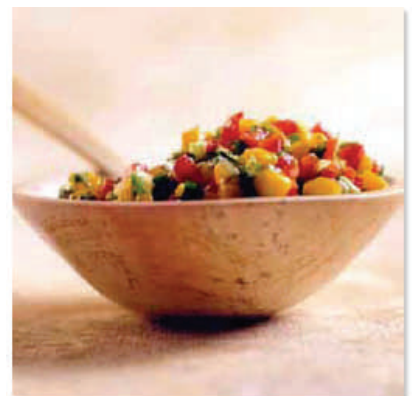
で来て、「左折禁止」の標識。しかも、Uターン車線は400メートルも先だ。そんなところまで行ってもらえるかよ！ そこでタイヤをきしませながら左に急ハンドルを切り、列に割り込んで、ドライブスルーの通路に車をつけた。ボクはいつものブリトーを注文して、駐車場の隅の方に車を止めた。さてと。包みを開けると、いつもとちがう。焼き目がついてないじゃないか！ こんがり焼くってことこそがすべてなのに！ これじゃあ、わざわざ高い金を払った意味がないだろう！ ボクは猛烈に腹が立った。だからといって、取りかえろと言いにいくこともできない。昼時で店は混んでるし、そんな

ことしてたら撮影に遅れてしまうだろう。ボクは、バックミラーに映る自分を見つめた。「こんなものありか？」とひとりごとを言いかけて、言葉につまった。自分の姿をまじまじと見つめ、つきものが落ちた。何もかもがはっきりと見えたので…恥ずかしかった。息をととのえて、落ち着かなきゃと思った。とりあえず、これを食べたなら…もう、こんなことはおしまいにするんだ。このばかどかい油でベトベトのおぞましいものにかぶりついて、ボクは泣き出した。食べることもできない。ふと、左に目をやると、ある家族連れがこちらをじっと見ている。そりゃそうだ。何年にもわたって回復の道を歩むひとりの若者が、車の中でブリトーにかぶりついてあられもなく泣いているんだからな。「どうかしましたか？」と、その一家の女性が声をかけてくれた。ボクはブリトーをくわえたまま、「わかかんない」とつぶやくように言った。すると、その女性は家族を連れてそそくさと立ち去った。ボクは恥も外聞もなくブリトーを食べると、遅れないように撮影現場に戻った。

その夜、家に帰ると、これまでの行動を正直にスポンサーに話しはじめた。ボクらは、アディクションの

威力と、それによってアディクトがしてかしかねないことについて一つ一つ話し合った。それから丸一年、こんがり焼けたボリューム満点のブリトーなしでやっていけたことは、われながら鼻が高い。でも、問題はブリトーにあるわけじゃないのだから、まったく手をつけなければすむということではない、とスポンサーに言われてしまった。「おまえは、ちょうど生きるのに弱気になっていたのだから、そこにつけ込まれて暴走することになったんだ」。スポンサーには、ボクがいい気になっていることがわかっていて。そこでボクは、ブリトーを手にしてどうなるか見てみることにした。今でも食べたいという気持ちはあったが、でも、例のチェーン店に行ってみると、ブリトーとのことがいまいましい思い出のように感じた。もちろん、ひどい目にあっただけはブリトーのせいじゃない。でも、離れているにこしたことはないと思った。ボクは将来に目を向け、新しいメニューを試してみることにした。よし、「スパイシー・チキン・ブリトー」でいってみよう。中身は「メキシコの香辛料でじっくり煮込んだチキンの細切れ、調理したライス、クリーミーな唐辛子ソースにサルサ」で、「上質の小麦粉を使った焼きたてのトルティーヤで巻いてある」か。おいしそうだな、すごくおいしくて…病みつきになりそう。だからボクは、この手の強い衝動に迫られてどうしていいかわからなくなったときに、まともなアディクトがすることをした。そこから、一目散に逃げ出したんだ。

ジョー・F(アメリカ合衆国/ニュージャージー)



ナルコスラビア通信

「今日だけ、私を信じ、私の回復を手助けしてくれるNAの仲間を信頼しよう」
『ホワイトブックレット』、『今日だけ』

前回、NA Wayに記事を書いてから数カ月経つ。あれから、ずいぶんといろんなことがあった。前回に掲載していただいた記事では、私の旧ユーゴスラビアでの旅と、そこでNAが誕生するありさまをお伝えした。そのNAも今や、親しみをこめて「ナルコスラビア」と呼ばれている。「ナルコスラビア」は5つの異なる地区(モンテネグロ、セルビア、マケドニア、ボスニア、クロアチア)から成り、これにスロバニアも加わるのを待っている。ほとんどが、かつて内戦でお互いに敵として戦った国ばかりだ。それも遠い昔の話ではない。今回は、このバルカン半島諸国にある小さな町に住むアディクトの回復を通して、私たちの旅のつづきをお伝えしたいと思う。ただし、アノニミティを守るために、仮の名前で紹介する。

ミラとの出会いは、昨年(2010年)の11月。VoIP(インターネットでの音声通話技術)によるミーティングを通じてのことだった。(前回の記事にあったので、おぼえている仲間もいるだろう。NAのなかったマケドニアでアディクトたちにメッセージを運ぶため、このようなミーティングをはじめることになったのだ。)これは、インターネットでの電話会議によるミーティングで、参加者にはみんなの声が聞こえるようになっている。ミーティングの進め方は、ふつうに会場で行われるNAミーティングとまったく変わらない。NAの文献を読み、スピーカーの話や朗読があり、みんなが「順番で」わかちあう。ふつうのミーティングのようにサービスもする。こうして週に2回、同じ曜日の同じ時間に開かれている。

ミラが参加したころは、何もかもがまだ始まったばかりだったため、行き当たりばったりでミーティングを開いていたが、それでも、NAの原理や伝統に忠実であろうとはしていた。ミラはとて内気だったので、声も聞きとりにくかった。地元のNAにつながってはいたが、自分の住んでいる町にはミーティングがなかった。別の町で行われているミーティングに出ると終バスに乗り遅れてしまい、その日のうちに家に帰ることができなかった。そういうわけで、このVoIPによるミーティングは、ミラには願ってもないものだったのだ。ミラはほとんどの薬物を断ちつつあったが、お酒はまだたまに飲んでいた。

ミラのことをよく知るようになるにつれて、私はインターネットによるミーティングが終わってからもミラに話しかけ、ふたりで完全に薬物を断つことやプログラムについて語り合ったりした。そしてミラはミーティングでも、ほかの仲間のメッセージやNAでの回復の歩みについて耳にしていた。だから、ミラがお酒をやめる決心をして、はじめてクリーンの1日目を祝うことになるまでに時間はかからなかった。

ミラは、自分がどれほど本気であるかを示すために、ブランデーの瓶に白いキータグをつけてテーブルの上に置いた。その横には、コンピュータがある。そこはミラが一日の大半を過ごす場所だった。私は今さらという思いで、なぜ私たちが降伏するののかということをもう一度よく考えるように言ってみたのだが、ミラは自分のしていることがどういふことかわかっていると云ってきかなかった。それで1ヵ月はクリーンでいられたと思う。ちょうどクリスマス(2011年)の時期だった。ミラは母親と暮らしていたが、しばらく前にいなくなってしまった兄弟を恋しがっていた。今でも帰ってくることに望みをかけていたのだが、その望みが絶たれたときに、自分を保てなくなってしまった。ブランデーがあるじゃない。きっと、つかの間でもこの痛みを忘れさせてくれるにちがいない。ミラが飲んでしまったと言っても、私は驚きはしなかった。それでも、ミラにはもう一度やり直す準備ができていた。そして今度は、ブランデーを家に置くようなことはしなかった。

これでもう私たちはなんの気配もなく、ボスニアのサラエボで開かれるリージョナル コンベンションの開催を待つだけになった。これはすごいイベントだった。サラエボからは、つながったばかりの仲間が大勢参加し、ロンドンのNAからも仲間がたくさんやってきた。そして、ニューヨークからもVoIPを通して知り合った仲間たちが参加してくれた。ここに参加したことが、回復していくうえでターニングポイント(転機)になったと語るアディクトは決して少なくなかった。クリーンタイムの長い仲間や地域にしっかり根

づいているNAの仲間はみな、謙虚(けんきよ)であった。それは、この旧ユーゴスラビア一帯にはミーティングがたくさんあるわけではないという現実をよく理解し、そういうなかでアディクトが回復してクリーンでいられるためにできるこ



とがあるなら、何でもしたという気持ちを持てないからだった。

ミラは、ホームであるベオグラードの仲間たちと一緒に到着した。ミラと私が顔を合わせるの、これが初めてだった。このような体験はどう説明してよいか分からない。相手をよく知っているという気がするのだが、何を話していいかわからないのだ。私たちはひとことも話さずに、時間が止まってしまったと思えるほど長い間その場に立ち尽くしていた。ほほえんではいたが、内心は泣き出しそうだった。ミラは再びクリーンになってから2週間を過ぎ、とても元気そうだった。コンベンションのミーティングのひとつでは、ミラのおかげも聞き、それがまた、私にちょっとしたスピリチュアルな目覚めをもたらした。ミラはすっかりNAにとけこんでいるようだった。

コンベンションが終わってそれぞれのホームに戻ってみると、インターネットによるミーティングはこれまで以上に

ナルコスラビア リージョン は、成長をつづけている。

意味のあるものになってきた。メンバーの多くがすでに顔見知りになっているからだ。自分たちのしていることにやりがいを感じるようになると同時に、新しいメンバーが参加するようになった。そして、グループには名前がついた。「ナルコスピア」だ。そうするうちに、このVoIPによるミーティングは口コミで広がり、数カ月の間に参加メンバーも増えた。ただ、これは地元で新しくできたミーティングのことが知られるようになるのとは、ちょっとちがう。ニュージーランドや南アフリカなどの遠く離れたところにいるアディクトが参加するにしたがって、地球全体に広がるミーティングになりつつあるのだ。マケドニアでは、みんなが集まってインターネットに接続できる場所がなくなりましたが、そこがなくなるまでVoIPによるミーティン

グを続けていた。その後、何人かのアディクトは自宅からこのミーティングに参加し続け、それ以外のアディクトはインターネットカフェでヘッドフォンを使って仲間のわかれあいを聞いている。

ミラは、このVoIPによるミーティングに毎回欠かさず参加していた。つながってすぐ、サービスを買って出たので、私が世話役をしている間にチェアパーソン(セクレタリー)になった。ミラがクリーンタイムを祝う日を迎えるたびに、みんながキータグをプレゼントしていた。私のいるロンドンからも多くの仲間たちが署名入りのカードを送ってくれていた。ミラは以前より少し大きな声で話すようになり、表情も明るくなった。たまに、私がミーティングに参加できなかつたりして、ミラと話すと、私はつい好奇心に負けて「だれが参加していた?」と聞いてしまうことになる。すると、ミラは、「NAの伝統に従わなくちゃ...アノニシティ、でしたよね?」と言う。これにはいつもニヤッとさせられる。母親も、ミラがどんどん変わっていくのをまのあたりしていたので、あるときなどは私に、これまでこんなに幸せそうにしている娘は見たことがないと言っていた。それで自分も、家族のための12ステッププログラムに参加してみようという気になり、スポンサーを見つけてステップに取り組みはじめた。

こうして書いても書いても、まだ言うべきことが書ききれないような気がする。ちょうど2、3時間前に、いつもどおりVoIPによるミーティングがあった。モンパサ(ケニア)、アリゾナ(アメリカ合衆国)、ノルウェー、サウジアラビア、スロバキア、ブラジルのほかにも、世界中のさまざまな地域のアディクトたちが参加していて、私はそういう仲間たちの話に耳を傾けていた。こうしてミーティングを重ねるうちに、たまたま参加者が若い女性だけということがあり、その時点でもう、毎週水曜の夜に女性ミーティングをやることになった。そして、ナルコスラビア リージョンでは新しくつながる仲間の数が増え続け、その多くが英語を話せないため、毎週月曜の夜には地元での言語によるミーティングが開かれている。こういうことが起こるのを、私はとても楽しみにしてい

たのだが、それはどれも起こるべきときに起こるべくして起こった。今夜のミーティングのスピーカーは、身体の不自由な仲間だった。この仲間は、このようなミーティングに参加することはと

ても役に立つし、謙虚な気持ちにさせられると言い、回復するなかで病気になったときに生じるさまざまな問題についてNAのサービス活動で自分が経験したことを話した。

私たちがここで経験していることを何もかも説明するなんてとうてい不可能だ。なにしろ、回復の道を歩むなかでは実際にいろいろなことが起こる。それはどれも説明しにくいものばかりなのだ。このVoIPによるミーティングについては、つい先日、英国のコンベンションに招かれて自分が経験したことをわかちあうことになった。私は、自分の番が来るまで、ほかのスピーカーたちの話に耳を傾けていた。ある仲間は、英国にある自分のホームグループが、アメリカにある別のグループを親身になって手助けしているという話をしていた。そしてまた、ある仲間は、自分のホームグループには「愛のバス」があり、これに乗って国中にあるNAグループを手当たり次第に訪ねているという話をしていた。こうした話に耳を傾けながら、私は自分に問いかけた。「私たちにこういうことをしたいと思わせるものは、いったい何なのだろう? このような欲求はどこから生まれるのか? そして、私たちはそれをどうやって実現させるのだろうか?」。私は、昨年マケドニアにおいて、NAのメッセージを運ぶ

最善の方法はないものかと思いついてたときのとき、全身に鳥肌が立った。そうだ。私にも、こういうことをしたいと強く望む気持ちがあったのではないか。あのとき、私は自分のハイパーパワーの存在を身近に感じる事ができた。だが、このような願望やハイパーパワーに導かれる感覚は、ナルコティクス アノニマスにいる私たちのほとんどにあるものだと思わず疑わない。それは自分より先にNAにつながった仲間たちだけでなく、あとからやってくる仲間たちを見ていればわかる。そうやってこれまで何度となく目にしてきたものが、ミラのなかにもあるからだ。

フェイク・G(英国/ロンドン)



* Voice over Internet protocol (VoIP) is a method of communicating via the Internet. Members can search for registered online meetings (including some via VoIP) at <http://www.na.org/index.php?ID=home-content-fm>. Click on Option #2 and select Web as the country.

雨にも負けず、 風にも負けず

「12番目のステップの精神は、無償で尽くすというNAの原理をよりどころとする」
『なぜ、どのように効果があるのか？
ステップ12』

わたしは回復の道を歩み始めたばかりのころに、「ミーティングの会場係が、会場を開けるためにやって来ないのだとすれば、死んだということしか考えられない」と言われた。その日は、特別な日だったので、わたしは夫の運転するトラックの後部座席にケーキをひとつ乗せていた。夫もわたしも、仲間が4年のメダリオンを手にするのを、この目で見たいという思いでいっぱいだった。外にでると、風が激しく吹き荒れていた。これじゃ、車のドアを開けるのもひと苦労だと思った。わたしは、たたきつける雨に押し流されそうにな

りながら、車に入ろうと奮闘した。凍えるような寒さだったので、ようやく車に収まったときにはほっとした。

さて、走り出したはいいが、こんな集中豪雨のなかをはたして運転していけるだろうか。家から1200メートルほど行くと、コンクリートの分厚い板が集中豪雨によって道路に流れられてきた。このようなものすごい豪雨だと、雨水が地面にしみこんでも追いつかないので流れができてしまい、下手をすると、鉄砲水と言われる自然現象が起こる。すでに、コンクリートの舗装が雨水にえぐられて道路がぼこぼこになっている。そこに車で突っこんでいくのは、巨大なくぼみをバウンドしながら走るようなものだ。いつもこれだから、わたしはここに引越したときに乗用車からトラックに買い換えるしかなかった。だが、そのおかげで、わたしたちはぼこぼこになった道路をなんとか通り抜けた。これで、大通りに出られる。雨は激しく降りつづき、時速20 km前後で走らないとまったく先が見えなかった。目の前に水のカーテンがあるようだった。若いころのわたしは、こんな状況でも恐れを知らずに運転していたが、この夜は心の底から恐怖が突きあげてくるようだった。そんなわたしに、夫は言った。「命であれ、手足であれ、自分が何かを失わざるをえないことに気づいたから、考えることも変わつたんだよ」

教会までは、まだここから24キロも先だったが、亀のようにゆっくり着実に進んでいけば必ずたどり着けるのだとわかっていた。前方には、もう1台、大通りを行く車があった。その車は、ハザードランプを点滅させていた。前方で赤いライトがリズムカルに点滅しているのには、なんとなくほっとするものがあった。その車は、同じ地点をうろうろしているように見えたが、わたしたちとの車間距離は縮まらなかった。町の外れに着くまで、2台とも、雨の

中を仲良く移動していった。街の明かりが見えてくるとともに、神がわたしたちのために寄こした付き添いの車は向きを変え、雨の降りしきる夜のなかにゆっくりと消えていった。

それからもう少し行ったところで、横目に何かがちらっと見えた。車道の橋に、黒いものが横たわっている。近くまで来て、目をこらしてみると、セグロサボテン(12メートル近いアメリカ最大のサボテン)が1本倒れていた。このサボテンが、そうやって道路ぎわに転がっている姿を見るのはなんともやりきれないことだった。わたしは砂漠に移ってくるまで、セグロサボテンのことは何も知らなかった。でも今は、このサボテンがカリフォルニアにあるセコイア(アメリカ杉)と同じで、大きくなるまでに何百年という時間がかかることも、日光をあびて腕をのばし育ていくことも知っている。それが結局、このような暴風によって打ち倒されてしまったのだ。そして、教会までもう少しというところ

で向こうから緊急車両が来て、ライトを点滅しながら通り過ぎていった。さらにパトカーが1台停車して、道路が封鎖されていることを走行中の全車両に告げていた。警官がひとり嵐の中に立ち、3メートルを超す倒木を調べていた。この様子では、公安局の処理班は忙しい夜を過ごすことになるだろう。

こんな夜にはだれも外出するわけがないだろうから、今夜のミーティングは夫とわたしだけでやるのだと思っていた。だが、予想に反して何人かの仲間がやってきて、みんなで心を寄せ合って嵐の夜を過ごしたのだ。そして、うまく生きられる方法を求めてやってきた新しいメンバーと一緒に、仲間の4年にわたる回復を祝った。こうして神は、ナルコティクスアノニマスを使って、わたしがハイヤーパワーを理解できるまで立ち返らせてくれたのだと信じている。この22年間というもの、アディクションが猛威をふるっているときも、なりをひそめているときも、人生には何度となく嵐が吹き荒れた。そのあいだずっと、NAがわたしの避難所になってくれたのだ。

サンディ・T(アメリカ合衆国/アリゾナ)

わたしたちは 必ず回復する

「…クリーンタイムは宝物だ。
かけがえのないものだからこそ、
命をかけて守るのだ」
『ベーシックテキスト:「もう一度生きる
チャンス」』

ぼくは時々、自分の人生や回復を根底からゆさぶられるミーティングにめぐり会う。2009年8月7日に出席したフリーダム・フライデー・ミーティングは、そういうミーティングだった。ぼくは、NAで回復できる幸せに恵まれたアディクトで、カナダのブリティッシュコロンビアにあるナナイモに

住んでいる。ナナイモはどちらかという小さな街(人口、90,000人)だけど、NAは大きな広がりを見せている。

この日のフリーダム・フライデー・ミーティングでは、マリーという仲間が25年という記念すべき節目を迎えるため、お祝いのケーキが用意されていた。これだけでも大いに勇気づけられたが、お祝いはそれだけにとどまらなかった。この日のミーティングには、ホームのメンバーだけでなく、よその街からも多くの仲間が参加していた。そのなかには、NAがまだ小さかったころに、バンクーバーで回復の道を歩みはじめたマリーの「昔なじみ」である仲間たちがいた。この昔なじみのうち、5人が、やはりクリーンタイムを祝うことになっていたのだ。そのほかにも、クリーンになって3週間しないうちにつまずいてしまったため、もう一度メダリオンを受け取る仲間が数人いた。この日、ここで一緒に祝おうクリーンタイムの年数を合計すると、188年を超えていた。

さらに、アディクションの連鎖は断ち切ることができるという事実を示すために、マリーの息子が30日のクリーンタイムを祝うことになって、その兄(クリーンになって4年半)も一緒に出席していた。二人とも、母親が道を照らしてくれたことに感謝していると言っていた。そして、この日出席していた女性たちのなかには、もうひとり、記念すべき日を迎える女性がいた。この女性は26年のメダリオンを受け取り、それとあわせて娘も14年のメダリオンを受け取った。

ここで感じた愛は信じられないものだった。その暖かい思いが直接伝わってくるようだった。その場を鼓舞する希望と感謝の気持ちは、このきわめて重大な機会に立ち会った人々の心の中でこれからもずっと生き続けるだろう。ぼくは心から感謝するとともに、とても謙虚な気持ちにさせられた。クリーンになって5年じゃ、まだひよっこなんだ!

『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる…私たちが(アディクションは)病気だが、必ず回復するのだ』

タイラー・L(カナダ/ブリティッシュコロンビア)

もし、病院施設委員会が なかったら

「…NAプログラムなら、自分もやってみようという気になる。
私たちの変わり方には、そう思わせるだけのものがあるからだ」
『H&I(病院施設)ハンドブック』

俺は、マサチューセッツ州ボストンのアディクトだ。使ってた年数はハンパじゃないぜ! まったく、「浮き沈み」の激しい人生だった。刑務所で暮らした年数もハンパじゃない。中にいる間は、もうこれまでのような使い方はしないぞって思うんだが、

外に出たら、そうはいかなかった！ あいかわらず薬物を手に入れることにやっきになり、使いまくって、もっと手に入れる方法や手段を見つけたことしか考えられなくなっちゃった。

クスリに手を出したばかりのころ、俺にはひとりで立派に生きているというプライドがあった。俺は、そういう根性がない連中を見下してせせら笑っていた。友だちや家族からくすねているような奴らを軽蔑していたんだ。あいつらは人間のクズなんだから、だれか撃ち殺してやればいいのに、と思っていた。

俺だって、昨日や今日アディクトになったわけじゃない。はじめのころには、クリーンになろうと努力したさ。今みたいな解毒施設なんかなかったが、公共医療が受けられる病院がいくつかあったので、俺は行ってみた。病院では、カードを1枚わたされ、そこには「私は、政府公認の薬物依存症者です」と書いてあった。俺は20才にして、立派な麻薬常用者であるというお墨つきをもらったんだ。これで人生は決まった！俺はもう二度とクリーンになろうなんて思わなかった。ここまでコケにされて、使わずにいられるかよ。俺はクスリを手に入れるためなら、何でもやった。警察に捕まっても、「ちよつとは大目に見てくれてもいいだろ？」とぞぶいていた。おまけに、自分がこうなったのも世の中のせいにして、俺を警察に売った奴らや、捕まえたおまわり、刑務所にぶち込んだ裁判官と、だれかれかまわすののしった。どうせ捕まえるんなら、ありったけのクスリと一緒に独房に入れてくれればいいんだ。ドアは溶接しちまって、たまに食い物を与えておけばすむ。それこそ、この世の天国だろうと思っていた。

俺は、1980年に州刑務所を仮釈放され、保護観察になっても使い続けた。1984年には、クスリでラリっているときに交通事故にあった。翌日、目を覚ましてみると、仮釈放規定違反で州刑務所に逆戻りしていた。またしても、お先真つ暗だ。それでも俺は、落ち込んで自己憐憫にひたるのが精いっぱい、自殺する勇氣はなかった。

刑務所に戻った次の日、囚人仲間のひとりが俺の独房にやってきて、「今夜、ミーティングがあるんだけど、こないか？」と言った。「うるさい」と追い払っても、そいつはしつこかった。「ナルコティクス アノニマスというプログラムがあって、そのミーティングを病院や施設でやるんだ」と言い、「AA(アルコホリクス アノニマス)みたいなもんだよ。ただ、NAでは、薬物について話すんだ」と説明した。俺は、「そんなくだらないものに、つきあっちゃいられねえよ！」と言ったものの、結局その夜に、そいつと一緒にNAのミーティングに出席した。とくに覚えていることと言えば、壁に掛かった時計のことぐらいだ(時計の針が進むのを眺めているだけだったからな)。こんなところにはいたくないし、人

かに囲まれてるのもいやだ。早く終わらないかな。そうすれば、独房に戻ってひとりになれる。そうこうするうちに、ミーティングは終わった。独房に戻る途中、例の囚人仲間が「今夜は、すごくいいミーティングだったな」と言ったので、俺は「最悪だな。どいつもこいつも、くだらないことばかり言いやがって」と言い返した。するとそいつは、「それでも俺は、だれにも負けないぐらい素晴らしい人生を手にしたんだ」と言った。なんだ、こいつ。穴の開いた靴はいて何言ってやがる。負け犬のくせに！

それでどうなったかという、現実には直面したってわけだ。俺には、もうひとつ終わらせる刑期があったんだ。その間にミーティングに出づけて、ようやく自由の身になった。1984年のニューイングランドではNAができたばかりだったが、いくつかミーティングを開いていたので俺は定期的に出席した。

俺は長年にわたって、ホームグループはもちろん、エリアやリージョン、そして国や地域を超えたつながりでもサービスにかかわった。それは素晴らしい経験になった。世界中から集まった仲間たちとも出会えた。そして、俺の関心は病院や施設へのサービスにあったので、WSC病院施設委員会ができたときに委員を務める機会に恵まれ、『病院施設ハンドブック』の誕生にかかわることができた。今の俺は、ホームグループで役立つことと、新しくつながる仲間がホームになじめるようにすることに努力している。

俺の回復の旅は今もつづいている。ミーティングには定期的に通っている。スポンサーがひとり、スポンサーが何人かいて、ホームグループもある。何があるろうと使わないし、NAのステップを日々の生活に生かそうとしている。俺は、社会でもきちんとやっていける人間になった。地域にとけこんで、結婚もしたし、子どもや孫もいる。こうして人間の尊厳を失わず、NAで回復していけることを感謝している。

俺がこんなふうになれたのも、ナルコティクス アノニマスに病院施設委員会というものがあってからだ。その委員会では、自分たちの生活のなかから時間をさいてでもしなければならぬことをしようと考え、何人かが俺のいた刑務所にやって来た。それで、俺たちのような刑務所にいるアディクトたちは、もう使わなくていいことや、これまでとはちがう生き方があることがわかったんだ。

ビーン・L(アメリカ合衆国ノマサチューセッツ)

< 投書欄 >

NAメンバーによる ソーシャルネットワーキング*

私のエリアでは、こんなことがあった。あるNAグループが、ミーティングで撮影した写真を、ソーシャルネットワーキングに

あるグループのホームページに掲載したのだ。これを見て、私はものすごく不安になった。このホームページを管理しているメンバーは、掲載した写真を閲覧できるのはこのページのメンバーだけだと思っていたのかもしれないが、それは間違っている。そもそも、ソーシャルネットワーキングのホームページというのは、部分的に細かく規制をかけなければ、だれが閲覧するかわからないものだ。検索エンジンを使えばほとんどの場合、簡単にリストアップされて開けるようになっているからだ。こういうことがわかっている人は少なく、この管理人もまったくわかっていなかった。だから、タグのついた写真(写っている人を確認できる個人名をつけた写真)がホームページに掲載されれば、検索エンジンで見つけだされてしまうということに気がまわらないだろう。だが、これは写真にかぎったことではない。「ナルコティクス アノニマス ○○○ ページ」と打ち込めば、一般社会の人でも、さまざまなエリアやグループのホームページが閲覧できるのだ。

エリアによっては、こういうことに気づいているメンバーがいて、インターネット上でアノニミティが破られることへの対策をとっている。写真を掲載せず、仲間がわかちあう内容を監視しているのだ。しかし、たいしてはここまで慎重にはなっていないので、NAの名称やシンボルを写真に添えて掲載することになる。このような状況をさらに悩めるものになっているのは、ソーシャルネットワーキングにホームページをもつグループの数が増えつつあり、それとともにミーティングで撮影した写真が續々と掲載されるようになってきたことだ。こういうことのほとんどが、無造作に(しかも能天気に行われている。ホームページをもつグループが、インターネットに掲載した写真はひとつ残らず、一般社会の人々の目に触れてもおかしくないということに気づいていないからだろう。だからこそ、インターネットへの掲載にはNAの12の伝統を生かさなくてはと思わざるをえないのだ。たしかに、NAの伝統には「インターネット」という言葉は出てこない。だから、伝統を当てはめようとは思わないというメンバーもいるが、そういう考えはばかっていると思う。

これから、NAの伝統とソーシャルネットワーキングとの関係をしっかりと見直す機会が増え、もっと応用範囲の広いガイドラインがNAメンバーに示されることを願ってやまない。ご一考いただければ幸いです。デイヴィッド・T(アメリカ合衆国ノフロリダ)

編集者注：ソーシャルネットワーキングは、無視できない気がかりなものとしてこれからもNA全体で取り上げていく話題であり、2010年のワールド サービス カンファレンスでも検討された。さらに詳しいことは、NA Way 2010年1月号に掲載された記事、『インターネットに顔を見せるNAメンバーたち』をお読みいただきたい。



どうすれば、 NAのサービスシステムを

かいぜん

改善できるのだろうか

NAでは今、ワールドサービスとサービスに関心のある世界中のメンバーたちが一緒になって、現在のサービスシステムに代わるものをつくろうと努力している。NAグループがもっと活動しやすくなり、今苦しんでいるアディクトにもうまく手をさしのべられるようにしようというわけだ。

このサービスシステム プロジェクトは、2008年のWSC(ワールド サービス まんじょういっ ち カンファレンス)で満場一致で採択され、2010年の同カンファレンスで出席者全員の賛同を得て誕生したものであり、NAのサービスで現在 ことがら 問題になっている事柄の一部解決をはかるために、さまざまな考えを引き出すことを目的としている。

9月～10月までの間には、アメリカ合衆国内で5つのワークショップが開催され、NAのサービスシステム変更に対するいくつかの修正案について話し合いを重ねている。

この修正案には、以下のような提案が含まれている。

- ・ アディクトがNAを見つけやすくすると共に、アディクトとかかわる人たちがNAと連絡を取りやすくするために、州、国、地方(さらには町、市、れんけい 国)という区分けをなくし、相互に連携できるようなサービス機関を結成する。
- ・ サービス委員会を設けて任せきりにするのではなく、地元ならではの具体的なプロジェクトや案を立ち上げて地域サービスの連携 れんけい をはかる。
- ・ サービス機関であれ、寄り合いであれ、地元のグループを支えることに心血が注がれるようにする。

このような修正案であれば、みなさんも期待するだけのことがあるだろう。むしろ、だからこそうまくいくか気になるということもあるかもしれない(こちらとしても期待を裏切りたくはない)。9月～10月まで開催されるワークショップで、5回のうちどれかひとつでも参加できないという場合や、あるいはこの修正案をまだ目にしていないという場合には、ぜひインターネットを覗いていただきたい。サービスシステム プロジェクトに関することは何から何まで、www.na.org/service_system に掲載されている。また、このウェブページには、以下の項目にリンクが張ってある。

- ・ システムの改革案
- ・ プロジェクトの背景と最新情報
- ・ プロジェクトに関する掲示板
- ・ パワーポイントによる発表と会議の概要
- ・ 修正案に対する意見提供の書類

なお、みなさんにも何かお考えがあれば、遠慮なくお寄せいただきたい。ただし、この第1回修正案に関する具体的な意見提供は、2010年12月31日で締め切らせていただく。2011年には、新しい資料が公開されることになっているので、2012年のワールド サービス カンファレンスで話し合われるときには、さらによい案になっているだろう。みなさんにはぜひ、このような重要なプロジェクトの進行に加わっていただきたい。私たちがみんな力で力を合わせなければ、これほどの変化をうまく載りきることはできないのだ。

これが最後の

NA Way マガジンは、NAの重要なコミュニケーション手段のひとつになっている。そして、NAの回復や一体性、サービスについてわかちあい、NAワールド サービスの情報も提供するということでは、ユニークなフォーラムでもある。現在では、紙版より内容が充実していることもあって、読者の多くがインターネット版のNA Wayを読むようになったが、それでもなお、紙版のNA Wayが毎年、16万部以上も配布されている。だが、莫大な費用をかけて配布しても、そのうち何千万部が配達不能になって戻ってくるのだ。私たちは、このままNA Wayという貴重な情報資源を提供しつづければ、その配布費用は経費から削られることはないという現実をつきつけられている。(註:ワールドサービスに登録している日本の各グループにも年々4回「英語版NAWAY」が送られてきています。ただし、グループ代表の交代、引っ越しなどで住所が変わると、配達されず、返送されてしまいます。アメリカから日本の各グループに配達される郵便料金の多くがムダになっています。下のお願いのように、できれば、日本語版をホームページからダウンロードして読んでもらえると、コストを減らせます。ご協力お願いします。)

この問題は、今回のワールドサービス カンファレンスで議題に取り上げられた。その結果、紙版のNA Way を無駄に配布するのを廃止することによって、配布費用の増加を最小限におさえるために、以下のような変更をお願いすることになった。

- ・ インターネットを利用しているメンバーには、ぜひ、インターネット版NA Wayの予約購読をお願いしたい。インターネット版なら、内容が充実していて、紙版には載らない記事が読めるようになる。こうしてインターネット版の読者が増えれば、印刷費用も配送費もはぶかれるのだ。ただし、インターネットを利用していないメンバーや、紙版のNA Wayを望むメンバーもいるだろう。その場合には、紙版の予約購読に再登録する必要がある。
- ・ NA Way はこれから、グループ、サービス機関に対して自動的に配布されることはなくなる。ただし、サービス機関であれば、自分たちのサービス委員会やグループなどの代理で、一括して予約購読を申し出ることができる。サービス機関による一括の予約購読については、www.na.org/subscribe で詳細を確認していただきたい。

以上の変更はいずれも、2010年の末から行われる。だが、善は急げだ。さっそく、www.na.org/subscribe でインターネット版を予約購読してはどうだろう。インターネット版の予約購読も紙版の予約購読に再登録もしなければ、これまでのように自動的に届くのは10月号が最後になる。2011年1月号からは、インターネット版予約購読での配信と、紙版予約購読に再登録した読者への配送だけとなる。

(註:日本語版NAWAYはいつでも誰でもNAジャパンのウェブサイトで見ることができます。予約は必要ありません)

今月号で

NA Wayの自動配布は

おしまいです

NA Way?

NOW

is the time to
e-subscribe

www.na.org/subscribe

The NA Way will continue to be a free periodical, but we encourage our readers and trusted servants to work with us in this process. Please let others know about the upcoming changes.

We will continue to add value to your electronic NA Way Magazine by including enhancements like additional stories, follow-up articles, photo features, live links to related information, etc.

The NA Way Magazine

Individual E-Subscription Order Form

Please complete this form online at www.na.org/subscribe

or mail it to NA Way Sub; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA

(please print)

First Name _____ Last Name _____

Address _____

Address 2 _____

City _____ State/Prov _____

ZIP _____ Country _____

Email _____ Phone _____

circle one: home/cell

Language: English French German Portuguese Spanish Russian (electronic only)

Thank you! E-subscribing is the preferred method because it reduces costs and offers additional content and features.

If you don't have Internet access or require a paper copy, check here Paper

Take action now!



Living Clean: The Journey Continues

*We are recovering
in the here and
now and the
future becomes
an exciting
journey.*
Basic Text

The review-and-input period for Chapters Three, Four, and Five ended 30 June 2010. There were 3,867 views and 845 downloads of the draft material from our website. We have received a total of 160 pieces of input on those chapters. The input came from individuals, groups, and service committees. Suggestions ranged from word choices to topics that were perceived as having been missed in the draft. We extend our gratitude to every member who participated in this process and offered his or her thoughts regarding the book. Overall, there is a sense of positive energy about the book, and many are eagerly awaiting the next chapters.

We are preparing the final two chapters and the Preface for fellowship review, which will begin by 1 October. The deadline for that review period will be 31 December 2010. We realize this deadline falls during a holiday season, but this is the only timeframe that will work to meet the scheduled publication of the approval form in April 2011. Local NA communities are encouraged to start planning now for workshops or events where they can review the draft material.

We want to extend our heartfelt thanks to NA members who have shared their experience, strength, and hope with us regarding living clean. We received input via email and discussion boards, in workshops at local events, by postal mail, and by audiotape. Your sharing affected the direction and structure of this book. We have reached a point in the development of the text where it would be challenging to consider additional material. Again, we thank you for your participation in the process that is bringing "Living Clean" to life.

Check the project page at
www.na.org/?ID=Living_Clean_Project
for more information.

***The final review and input period is
1 October – 31 December 2010***

[www.na.org/?ID=
Living_Clean_Project](http://www.na.org/?ID=Living_Clean_Project)
worldboard@na.org
www.na.org



2010年度NA文献調査

今回の調査では、NA文献の新刊と改訂版がつくられる際に優先すべきことについて、メンバーひとりひとりの声が伝わることを願っている。メンバーたちが必要とするものや望むものは世界中で大きく異なるため、このような調査をすることによって、NA全体の考えというものが把握しやすくなるだろう。

ワールドボードでは、将来の文献プロジェクトに向けてどのような提案を進めていくかを考える際に、今回の調査から得られた情報を活用することになる。今回の調査では、すでに出版されているIP類の改訂に関する質問事項は設けていない。それには、2つの理由がある。ひとつには、IPのテーマとされていることの多くが、現在出版作業が進められている書籍、『リビング クリーン: ザ ジャーニー コンティニュー』に反映されているということ。もうひとつは、NA文献をつねに時代に即したものにしていくことは重要な活動であるに変わりはないが、過去の文献調査ではIP類の改訂について明確な方向性をつかむことができなかったということ。以上のことから、IP類に関してメンバーからのフィードバック(メンバーから寄せられた意見)をまとめるには、別の方法を考えていく必要があると思っている。いずれにしろ、このような重要なプロジェクトに参加していただいたメンバーには感謝している。

NAには、これからどのような文献が必要なのか。

何が必要で、何が必要ではないか、そしてどのような文献を優先すべきかということを決める際には、あくまで世界中のメンバーが必要とすることをじっくり考えていただくようお願いする。私たちはつい、自分たちのミーティング場を見まわして必要なものは全部あると思ってしまいがちである。だが、まだNAにつながっていないアディクトや、他の国や地域で誕生しつつあるNAのメンバーたちには、そうともかぎらないのだ。

新しい回復に関する文献が、NAメンバーのためになると思うか	はい	いいえ
コメント		

以下の表には、これまでに各種文献についてメンバーたちから出されたアイデアをまとめてある。それぞれのテーマごとに設けられた枠に[✓]を記入していただきたい。各項目の右端には意見を記入するようになっている。また、「どうしても必要」という枠に[✓]を記入した場合は、その文献に求める内容を具体的に書いていただくと、こちらも理解しやすい。各種文献に関する質問表の下には、新しい文献について書き込む欄がある。これは、まさにそのような要求に応えるために設けられているので、ぜひ、みなさんのお考えを記入していただきたい。なお、扱うテーマの範囲や焦点は、これからもまだ議論の余地がある。

回復に関する書籍類					
アイデア	意見なし・ 分からない	必要ない	必要だが 最優先ではない	どうしても必要	意見
NAの歴史					
『伝統』のワークブック					
日々の瞑想に利用する本 :一日にひとつ、スピリチュアルな原理を テーマにする					
SWG(ステップワーキング ガイド)の姉妹版:SWGを使いこなしてい るメンバーがさらに理解を深める					
スポンサーシップに 関する新しい本					
その他(具体案を記入)					

この調査表は、www.na.org/litsurvey で記入されるか、あるいは記入した用紙をファクス 818.700.0700 で送信、もしくは NAWS; 19737 Nordhoff Place; Chatsworth CA 91311 USA 宛に郵送していただきたい。いずれの場合も、2011年4月1日を提出締め切りとする。

書籍の改訂版					
アイデア	意見なし・ 分からない	必要ない	必要だが 最優先ではない	どうしても必要	意見
現在出版されている 『ステップワーキングガイド』の改訂					
現在出版されている 『スポンサーシップ』の改訂					
その他(具体案を記入)					
ブックレット(小冊子)(一冊、20~24ページの長さ)					
アイデア	意見なし・ 分からない	必要ない	必要だが 最優先ではない	どうしても必要	意見
NAの伝統にある 原理を実践する					
サービスと回復					
『12の概念』の応用編					
その他(具体案を記入)					
インフォメーション パンフレット類(IP類)					
アイデア	意見なし・ 分からない	必要ない	必要だが 最優先ではない	どうしても必要	意見
NAに長くいるメンバーに役立つIP					
12番目のステップ活動とは:さまざま な場面で実際に役立つ提案を載せ る					
女性の回復					
世界各地の先住民のメンバーたち に役立つIP					
明確なNAのメッセージを伝えること					
セクシャリティに関係なく					
スピリチュアリティとは					
その他(具体案を記入)					

統計データ

今回の調査では、文献の優先順位に関するご意見だけでなく、ご自分のことも簡単にお答えいただければ幸いです。

性別 男性 女性

年齢層 18才以下 18~24才 25~29才 35~44才 45~54才 54才以上

クリーンタイムの長さ _____年 _____カ月

所在地 _____市 _____都道府県 _____国

この調査表は、www.na.org/litsurvey で記入されるか、あるいは記入した用紙をファクス 818.700.0700 で送信、もしくは NAWS; 19737 Nordhoff Place; Chatsworth CA 91311 USA 宛に郵送していただきたい。いずれの場合も、2011年4月1日を提出締め切りとする。

ホームグループ紹介

NAwayでは、さまざまなNAグループからミーティング会場の写真が送られてくるのをお待ちしている。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮いただきたい。なお、写真には、グループの名称、所在地および国名はもちろん、グループができてからどのくらい経つのか、ミーティングの形式、そして「ウチのグループならではの」ことなど、グループの紹介文を添えていただくようお願いする。

ちょう

蝶の舞う庭で、 ミーティング

この「ケアリング スルー シェアリング アゲイン ミーティング」は、オハイオ州ピスガで毎週、月曜の夜にミーティングをしている。ホームのメンバーは12~14人いるが、実際に出席する人数は季節によって変わってしまう。とくに暖かい夏の間は、みんないそいそとやってくる。なぜかという、このミーティングは教会の外にある「バタフライ・ガーデン(蝶の庭)」で開かれるからだ。広々とした空の下で木々に囲まれてミーティングをするというのは、とても心が安らぐ。ちょっと虫が多いのと雨が降ったりするのを別にすれば、こうして月曜の夜に屋外で集まるのもまんざらすてたもんじゃない。

このグループが「ケアリング スルー シェアリング アゲイン ミーティング」と呼ばれるのには、わけがある。このミーティングはもともと、1985年にオハイオ州のウェストチェスターで始まったんだ。そのときには、おれのほかにひとりかふたりの仲間しかいなかったが、5年のうちにメンバーが増えた。当時は、シンシナティという大都市圏でもNAミーティングは数えるほどしかなかったので、そこらじゅうのアディクトが待ってましたとばかりに押しかけたというわけだ。

1985年に、このグループは「ケアリング スルー シェアリング ミーティング」という名前でスタートした。それから5年ぐらいして、おれはNAを離れ、ミーティングに行かなくなったアディクトが避けては通れない道をたどった。それでも8年ちょっと前に、おれはもう一度ナルコティクス アノニマスにたどり着くことができた。こうして戻って来れたからには、NAを大切にしないわけにはいかない。それにはまず、おれは「ケアリング スルー シェアリング ミーティング」を一からやり直さなければならぬ。そういう気持ちを忘れないために、グループの名前に「アゲイン(もう一度)」という言葉をつけ加えたんだ。

ゲイリー・R(アメリカ合衆国/オハイオ)





カレンダー

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at: www.na.org/?ID?=comingup-toc. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or *The NA Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Australia

New South Wales 12-14 Nov; Forster Group Spirit of Unity; Tiona Park, Sydney; Event Info: 610412005506

Bahamas

New Providence 5-7 Nov; Bahamas Area Convention 21; British Colonial Hilton, Nassau; Event Info: 242.436.4016

Belgium

Ganshoren 9-10 Oct; Belgian Convention 10; De Zeyp, Ganshoren; www.na-belgium.org

Canada

Mississauga 12-14 Nov; Canadian Convention 18; Delta Meadowvale, Mississauga; www.ccnacconvention.com

Dominican Republic

Santo Domingo 19-21 Nov; Dominican Republic Regional Convention 9; Barcelo Capella Beach Resort, Playa Juan Dolio; www.naquisqueya.com

Germany

Lower Saxony/Niedersachsen 1-3 Oct; Nord Area Convention 2; Eduard-Schilling-Stiftung, Harpstedt; www.na-nord.de/termine

Greece

Crete 29-31 Oct; Greece Regional Hellenic Convention/Conference 9; Aldemar Knossos Royal Village, Hersonissos Irakleiou; www.na-greece.gr/Events.html

India

Darjeeling 19-21 Nov; Darjeeling Area Convention 3; Mirik, Allay Ground, Mirik, Event Info: www.apfna.org/docs/events/darjeeling2010.pdf

Ireland

Belfast 22-24 Oct; Irish Regional Convention 25; Stormount Hotel Belfast; www.nanorthernireland.com

Mexico

Baja California 22-24 Oct; Area Baja Costa Convention 18; Grand Hotel, Tijuana; www.Baja-son.com

New Zealand

Otago 22-24 Oct; Aotearoa NZ Regional Convention; Clubs and Societies Centre, OUSA, Dunedin; www.nzna.org/namembers/naevents.shtml

Venezuela

Bolivar 19-21 Nov; Venezuela Regional Convention 6; Hotel El Embajador, Puerto Ordaz; www.na-venezuela.org/eventos.asp

United States

Alabama 12-14 Nov; Greater Birmingham Area Convention 16; Sheraton Hotel, Birmingham; Event Info: 205.447.7320

2) 14-16 Jan 2011; Central Alabama Area Convention 14; Quality Inn Governor House Convention Center, Montgomery; www.caanaasc.org/FreeAtLast%20XIV.htm

Arizona 15-17 Oct; Mexico, Arizona, California Convention 2; Hilton Garden Inn-Pivot Point Conference Center, Yuma; www.maccna.org

Arkansas 15-17 Oct; Arkansas Regional Convention 3; Holiday Inn, Jonesboro; www.arkansasregionalconvention.org

California 11-14 Nov; Recovery First Men's Group Spiritual Retreat 6; Rancho San Vicente, Campo; Event Info: 858.414.7810

2) 26-28 Nov; Southern California Regional Convention 31; Hilton Anaheim, Anaheim; www.todayna.org

3) 7-9 Jan 2011; TAC Convention 11; Chico Holiday Inn, Chico; www.TAC-Convention.org

Colorado 15-17 Oct; Colorado Regional Convention 24; Doubletree Hotel, Grand Junction; www.nacolorado.org/crcna

Connecticut 19-21 Nov; No Limits/Basically Lit Group's NA History Conference; Stamford Plaza Hotel, Stamford; www.historyofna.org

2) 7-9 Jan 2011; Connecticut Regional Convention 26; Hilton Stamford, Stamford; www.ctrna.org

Florida 15-17 Oct; Heartland Area Convention 8; River Ranch, River Ranch; www.naflheartland.org/Events.htm

2) 29-31 Oct; Treasure Coast Area Convention 4; Hutchinson Island Marriott Resort, Stuart; www.treasurecoastareana.com

3) 5-7 Nov; Greater Orlando Area Convention Unidos en Recuperacion 6; Ramada Plaza Gateway, Kissimmee; www.orlandona.org

4) 12-14 Nov; Gold Coast Area Rainbow Weekend 13; Marriot Hollywood Beach, Hollywood; www.rainbowweekend.org

5) 26-28 Nov; Palm Coast Area Convention 29; Crowne Plaza West Palm Beach, West Palm Beach; www.palmcoastna.org

Georgia 29-31 Oct; West End Area Convention 24; Crowne Plaza Hotel, Atlanta; Event Info: 678.683.6194

Hawaii 28-31 Oct; Hawaii Regional Convention 18; King Kamehameha Kona Beach Hotel, Kailua Kona; www.na-hawaii.org

Illinois 15-17 Oct; Chicagoland Hispanic Area Convention; Chicago Marriott Midway, Chicago; Event Info: 773.443.5598

2) 29-31 Oct; Joliet Area Convention 13; Doubletree Chicago-Oak Brook, Oak Brook; Event Info: 815.922.4059

3) 5-7 Nov; Lake Borderline Area Convention 4; Hyatt Regency, Deerfield; www.chicagona.org/events.html

4) 6-9 Jan 2011; Chicagoland Regional Convention 23; Hyatt Regency McCormick Place, Chicago; www.chicagona.org/events.html

Kentucky 22-24 Oct; Ocean Gateway Area Convention 13; Clarion Fountainebleau Hotel, Ocean City; www.ogana.org

2) 26-28 Nov; Free State Regional Convention 18; Hilton Baltimore, Baltimore; www.fsma.org

Massachusetts 22-24 Oct; Berkshire County Area Convention 3; Jiminy Peak Mountain Resort, Hancock; berkshirena.org

Michigan 29-31 Oct; Southwest Michigan Area Convention 5; Radisson Inn, Kalamazoo; www.michigan-na.org

Mississippi 22-24 Oct; Mississippi Regional Convention 27; Lake Terrace Convention Center, Hattiesburg; www.mrscna.net

New Jersey 5-7 Nov; Northeast New Jersey Area Convention 16; Hyatt Regency, New Brunswick; Event Info: 201.747.0684

New York 15-17 Oct; Open Arms Area Convention 3; Holiday Inn, Suffern; Event Info: 856.924.3827

2) 29-31 Oct; Western New York Regional Convention 15; Adam's Mark Hotel, Buffalo; www.nawny.org

3) 14-16 Jan 2011; Nassau Area Convention 8; Long Island Huntington Hilton, Melville; www.nacna.info

North Carolina 7-9 Jan 2011; Spiritually High in the Land of the Sky 26; Crowne Plaza Resort, Asheville; www.crna.org/events

Ohio 26-28 Nov; Greater Cincinnati Area Convention 18; Hyatt Regency Hotel, Cincinnati; www.nacincinnati.org

Oklahoma 5-7 Nov; Oklahoma Region Fall Spiritual Retreat 26; Camp Waluhili, Wagoner; www.okna.org

Pennsylvania 15-17 Oct; Reading Area First Annual Convention; Inn at Reading, Wyomissing; www.racna.info

2) 19-21 Nov; Tri State Regional Convention; Seven Springs Mountain Resort, Seven Springs; www.tristate-na.org

3) 26-28 Nov; Inner City Area Convention 2; Hyatt Regency at Penn's Landing, Philadelphia; www.naworks.org/flyers

South Carolina 4-7 Nov; Carolina Region serenity Festival 28; Myrtle Beach Convention Center, Myrtle Beach; www.Serenityfestival.org

2) 18-21 Nov; First Port City Area Convention; Marriott Hotel Downtown Historic Charleston, Charleston; www.portcityna.com

Tennessee 24-28 Nov; Volunteer Regional Convention 28; Sheraton Music City Hotel, Nashville; www.nanashville.org/volunteer-region-convention

Texas 15-17 Oct; Alive & Kicking Group Anniversary 37; Sheraton Brookhollow, Houston; Event Info: 281.748.4860

2) 5-7 Nov; Best Little Regional Convention 22; Fifth Season Inn and Suites, Amarillo; www.blrma.com

3) 26-28 Nov; Central Group Anniversary 25; Holiday Inn Select, Dallas; Event Info: 214.534.0198

Virginia 7-8 Jan 2011; Rappahannock Area Convention 29; Fredericksburg Expo Center, Fredericksburg; Event Info: 540.287.7908

Washington 5-6 Nov; Washington/N Idaho Regional H&I/PI Learning Day; First Congregational Church, Tacoma; Event Info: 253.884.6623

Wisconsin 22-24 Oct; Wisconsin Regional State Convention 27; Chula Vista Resort, Wisconsin Dells; www.wsnac.info

ゼ・カルディンホ

マヌエル・O 作

「サービスは、もっとも大事なことのひとつだ」

「他の人がやってくれるならね」

「とくに、『伝統8]だね」

「ほら、みんないっせいに壁の『伝統』ポスターを見てるぞ」

「それから…『NAのサービスの概念』の4番目ね」

「ほら、キョロキョロしてるぞ！ おちょくりがいのある連中だな」

「ゼ・カンディンホ」は、ポルトガルのNAが『セレンディデイド（落ち着き）』というタイトルで発行しているニュースレターの連載コミックだ。

「ゼ・カンディンホ」というのは、回復しつつもまだ頭が混乱しているアディクトにつけられたニックネーム。かっこつけて、正直なふりをし、おもしろい人物とみせかけていても、イヤミな性格が「影」のようにつきまとい、皮肉なツッコミを入れる。ちなみに、今回は、ポルトガルの典型的なミーティング会場が舞台になっている。このミーティング会場の壁には、12のステップと伝統のポスターが貼ってあるが、12の概念のポスターはまだ貼っていないのだ。

『セレンディデイド』（ポルトガル）の許可を得て、

2010年6月号より転載

in Serenidade n.º 86_Junho 2010

NAWS PRODUCT UPDATE



Large-Print Sixth Edition Basic Text

This version carries the NA message to those with special needs.
Item No. XLP1101 Price US \$15.00

Arabic

Group Reading Cards (7-card set)

Item No. AR-9130 Price US \$4.00

Tri-Plate Medallions

To celebrate recovery milestones, two new striking color combinations are available:
black/silver and pink/pearl
in 18 months, 1–50 years, and eternity.

Series 6500 (Black) Price US \$20.28
Series 6600 (Pink) Price US \$20.28



Brazilian

Sponsorship Apadrinhamento

Item No. BR-1130
Price US \$7.00



For the Parents or
Guardians of Young People in NA

Für Eltern oder Erziehungsberechtigte von Minderjährigen in NA

Item No. GE-3127 Price US \$0.26



Spanish

NA: A Resource in Your Community
(2010 Version)

Un recurso en su comunidad

Item No. CS-1604 Price US \$0.32

Membership Survey

Encuesta a los miembros

Item No. ZPRCS1001 Price US \$0.25

Information about NA

(2010 Version)

Información sobre NA

Item No. ZPRCS1002 Price US \$0.25

Italian

Membership Survey

Sondaggio di appartenenza

Item No. ZPRIT1001 Price US \$0.25

Lithuanian

NA: A Resource in Your Community
(2010 Version)

Ištekliai jūsų vietovėje

Item No. LT-1604 Price US \$0.32

Poster Set of 7

Item No. LT-9070 Price US \$8.60

German

By Young Addicts, For Young Addicts

Von jungen Süchtigen, für junge Süchtige

Item No. GE-3113 Price US \$0.26



Norwegian

NA: A Resource in Your Community
(2010 Version)

En ressurs i ditt lokalsamfunn

Item No. NR-1604 Price US \$0.32

Group Business Meetings

Grupperaks møter

Item No. NR-2202 Price US \$0.21

Group Trusted Servants: Roles and Responsibilities

Betrodde tjenere: Roller og ansvar

Item No. NR-2203 Price US \$0.21

Portuguese

NA: A Resource in Your Community
(2010 Version)

Um recurso na vossa comunidade

Item No. PO-1604 Price US \$0.32

Swedish

NA: A Resource in Your Community
(2010 Version)

En resurs i samhället

Item No. SW-1604 Price US \$0.32

Turkish

NA: A Resource in Your Community (2010 Version)

Toplumunuzda Bir Kaynak

Item No. TU-1604 Price US \$0.32

Coming soon

It Works: How and Why in Special and Gift Editions



Featuring an iridescent green and gold cover with a debossed NA logo, and complementary gift-box sheath. A limited supply of the hand-numbered Special Edition will be published, which will also feature foil embossing and a deluxe debossed sheath.

Item No. 1141 (Special) Price US \$25.00

Item No. 1142 (Gift) Price US \$15.75

Spanish

Basic Text Sixth Edition

Narcóticos Anónimos

Item No. CS-1102 Price US \$11.00



Heat-Sensitive Mug

More will be revealed. Our message, "...that an addict, any addict... lose the desire to use..." is artfully printed on this handsome charcoal gray mug. Add a hot beverage and the unique artwork from the title page of the Limited Edition Commemorative Basic Text is slowly revealed in full color.

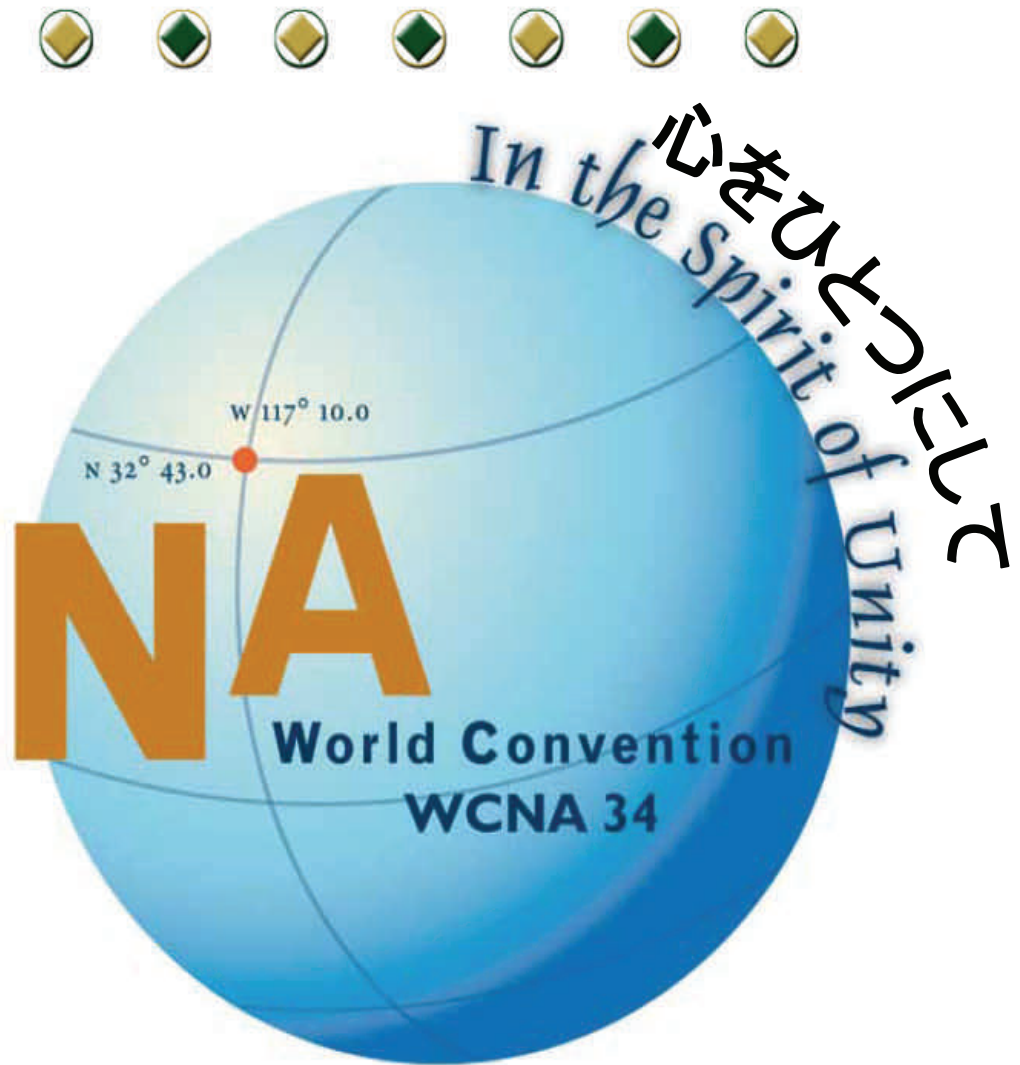
Item No. 9416 Price US \$15.00



Commemorative Basic Text Sixth Edition *Narcóticos Anónimos*

Celebrate the 20th Anniversary of the Spanish Basic Text and the release of the first version that includes stories with this hand-numbered, limited version. The handsome deep blue and purple leatherette cover, punctuated by a debossed NA logo and silver lettering, opens to a stunning title page where a three-dimensional rendering of the NA logo is accompanied by those familiar words: ...that an addict, any addict, can stop using drugs, lose the desire to use, and find a new way to live.

Item No. CS-1103 Price US \$25.00



WCNA (NAワールドコンベンション) が、 光あふれるサンディエゴに戻ってくる

世界中の仲間たちによる回復のワークショップやスピーカーズミーティング、
楽しいイベントや催しもいっぱい。みんなで参加して、一生の思い出をつくろう!

WCNA34への参加登録は、www.na.org/subscribe で受付ている。

事前登録

そして、ここでしか手に入らない事前登録商品は、
2010年12月1日からインターネットで申し込み受け付け開始。

www.na.org/wcna34